2011 年度多摩大学地域プロジェクト発表祭　　2012 年 2 月 9 日

「みんなの菜園プロジェクト」

発表者：浅田暢一 大石展久 五味尚希 隅田智明 田上知樹 長原康至 望月祐介
（梅澤ゼミ 2 年）

1. 目的

本プロジェクトの目的は、多摩ニュータウンに住むお年寄り、特に独り暮らしのお年寄りが日常的に地域に出る機会を作り、いつの間にか自然に地域・世代間交流している場を作ることである。

多摩ニュータウンは高齢化が進み、独り暮らしのお年寄りが増えている。集合住宅は二世代、三世代同居が難しいため、高齢化は止むを得ない。私たちは、団地内に引きこもり、孤立しがちなお年寄りの方たちが「どうしたら日常的に外出してもらえるか」、「地域に住む方たちと自然に交流してもらうためにはどのような方法が有効か」考えた。交流が活発で、誰とでも気軽に話しや挨拶ができる場についてゼミ生で検討している内に「お隣同士で物の貸し借りができる」「夕飯のおかずを届けたり、交換できる」昔の下町のような、アットホームな場があれば外出してもらえるのではないかと考えた。イベントを通じて交流を図るという考えもあるが、イベントは「起爆剤＝きっかけ」であって継続的、日常的な繋がりがあってこそ活かされると考えた。そして「ちょっと外に出る」ことが、生活の一部になるような「しかけ」を議論した。その結果まとまったアイデアが「みんなの菜園」である。現在、70～80 代のお年寄りは農業を経験したことのある方が多い。一方、団地暮らしが長く、自然を楽しむ知識のないお年寄りもいる。農業の経験の全くない若夫婦世代や壮年もいる。しかし日本人のＤＮＡには農業の血が流れている。菜園で教えあい学びながら地域・世代間交流が出来るのではないかと考えた。水をあげ、小まめに世話をする菜園を通じてコミュニケーションが取れたら目的の達成につながると考えた。「家庭菜園」はそれぞれ個人で所有するが、個人が所有するのではなく、みんなが関わり、楽しむことができるという思いをこめて「みんなの菜園」というプロジェクト名にした。

２．これまでの活動

（１）厳しい現実 - 場所の問題

上記のような経緯で我々は「みんなの菜園プロジェクト」の実現に向けて活動することになった。多摩市でも地元の農家から農地を借りて家庭菜園を開設しているが、「お年寄りが日常的にちょっと外に出て世話をする」という我々の考えでは利用できないと感じた。

次に、多摩市企画政策部に企画の相談に伺う。そこで農業委員会をご紹介いただき問い合わせたが、多摩市はニュータウン開発で農地が殆どなく、更に団地の中で菜園ということになると、さまざまな制約もあることから現状では様々な問題を解決しなければならないことがわかった。

（２）先行事例・関連事例の検討

そこで実現の可能性を探りながら自分達と同じ思いを持ち、実践している事例を調べることにした。2009 年春に開設した「コレクティブハウス聖蹟」の屋上菜園、2011 年に開設した「りえんと多摩平（団地再生活用プロジェクト）」、慶応大学公認サークル「スローフードクラブ」の取り組みなどを勉強し、このような活動から自分達に活かせることを考え、話し合いをした。

（３）ホップ・ステップ・ジャンプ、３つの計画

そのような中、「ベルブ永山の屋上緑化スペースが手つかずになっている」、「諏訪小学校では菜園をやっている」という有力な情報を片桐徹也先生が教えて下さり、更に永山公民館長さん（当時）と諏訪小学校校長先生を紹介してくださることになった。我々は「団地内みんなの菜園」を中・長期プロジェクトと位置づけ、「ベルブ永山屋上緑化プロジェクト」と「多摩市小学校みんなの菜園プロジェクト」に取り組むことにした。

３．ベルブ永山屋上緑化プロジェクト

（１）目的

ベルブ永山は、公民館や図書館、郵便局などの公共施設や飲食店等が入居する複合施設である。その屋上は屋上緑化が可能な設計になっているが今現在は閉鎖されている。唯一の利用は、永山公民館保育室を利用する乳幼児を対象とした夏のビニールプール設営くらいである。本プロジェクトでは、手つかず状態になっている屋上緑化スペースをハーブや野菜を育てることで整備し、公民館を利用する乳幼児、その保護者に植物と触れ合う環境づくりを行いたいと考えた。さらに将来的にはベルブ永山屋上でハーブや野菜を公民館利用者、地域の方々と共に育て、収穫することにより、屋上緑化の再生と地域・世代間交流を活性化させることが目的である。初めにゼミ生が実際にハーブガーデンを行い、次第にある程度ハーブが育ってきたら市民の皆様にも誘い入れ、市民の皆様にも参加していただき、永山公民館を市民の憩いの場にすることが最終的な成果である。

（２）実施内容

現在、ベルブ永山屋上は普段鍵をかけており、夏に６～７回、永山公民館保育室を利用する乳幼児のためのビニールプール遊びで開放されているだけの状態である。そこで今回は夏休みの時期にプールに遊びに来た乳幼児とその保護者の方々に私達が育てたハーブや野菜を楽しんでもらうことを最初のステップとしたいと考えている。また公民館側の要望を伺いながら、将来的には地域の保育園、幼稚園等の子供達、地域のお年寄りの方々にも声を掛け、実際に作ったハーブや野菜を見てもらう、料理教室などの公民館事業で収穫物をご利用いただくなど、活発的な交流が行えるのではないかとも考えている。

（３）これまでの経過

永山公民館職員の方に企画書の説明と屋上の視察。永山公民館の大屋である新都市センター開発株式会社へ企画書の提出と説明、新都市センター開発株式会社からプロジェクトの許可をいただく。しかし、永山公民館屋上下にはケーブルやコード等があるため簡単に土を掘ることが出来ない。先ず永山公民館に有る十個のプランターを使用して土や苗、小さな野菜などを作ることから始めることになった。ハーブ、菜園づくりの講師は、公民館職員の方のご紹介により多摩グリーンボランティア森木会会員の方に決定。

現在は、ハーブを育てる１年間のスケジュールと必要な道具、材料の一覧表を２月中旬までに作成して下さり、本格的な作業は３月から始まることになった。

（４）今後の活動

３月は腐葉土、石灰を使用した土作りを行い、土はひと月置いておく必要があるため、種まきは４月から行う。苗の手配。出来れば夏のプール開きには、素敵なハーブガーデンが完成するように頑張り、乳幼児や保護者の方々に見てもらえるようにする。子供達が興味を持ってくれて、広く事業展開（料理教室など公民館主催事業等でハーブを利用してもらう等）が出来るハーブの種類、ハーブ以外で育てる野菜等の具体的な内容を話し合っていく。また、収益を上げ、経費に回せるようにしたい。また、ブログ、ＨＰに写真を投稿し、情報発信をおこなっていきたい。

４．多摩市小学校みんなの菜園プロジェクト

（１）目的

多摩市は、「確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成」、「学校・家庭・地域の連携と市民参加の拡充」、「社会教育の振興と家庭教育の支援」の三つを教育目標の柱とし、学校教育力、家庭教育力、地域教育力が果たす役割を明確にする中で教育施策を行っている。そして、すべての児童、生徒が、学校で楽しく学び、生き生きと学校生活を送ることができるよう、学校・家庭・地域のそれぞれの教育力の強化を図り、三者連携をすることによって子どもたちの育成を目指し取り組みを行っている。

そこで私たちは三者連携の発展を含め地域の交流を目指すこと、学校を地域の連携による地域・世代間交流を目的として小学校でのみんなの菜園を考えた。ここでの交流は、自宅にこもりがちなお年寄りの方々に外（小学校）へ出て頂き、子どもたちや保護者と世代間交流していただくことを目的としている。

私たちは、お年寄りの方々も子どもたちと接する機会があれば世代間交流ができるのではないかと思い、そこで是非、農業の知識があるお年寄りの方々に参加していただいて児童と交流し、小学校の一つの行事として継続的に行いたいと考えている。そのことで学校が地域に開かれることが自然に促進できると思う。また、学校内の菜園づくりによって、子どもたちが地域の菜園作りに関心を持ち、地域へのつながりが生み出されるという双方向の効果があると考えている。

（２）プロジェクトの進捗状況

多摩市立諏訪小学校の校長先生は農への関心が高く、実際に学校では大根を作っていらっしゃると伺っている。諏訪小学校学童保育は大学生ボランティアが運営に関わり、多摩大学石川ゼミが英会話のプログラムを展開するなどの小学校 - 大学の連携が活発に行われている。みんなの菜園プロジェクトを通じて三者連携をはじめ様々な連携の可能性が生まれるのではないかと考える。

（３）プロジェクトの今後

上記の目的を達成するため、今後は、第一に、小学校やその周辺エリアの特徴について知ること。第二に、学校側（学校長）のご要望を伺い、子どもたちのためによりよいプロジェクトとなるよう検討していきたいと思う。第三に、お年寄りを中心に、地域の方々にも幅広く参加してもらいたい（小学校側のご意向が第一優先）と考えている。

（４）プロジェクトの成果と意義

小学校での菜園プロジェクトを通して、小学生と野菜を育て上げるということで責任感と達成感を味わえるようにしたいと思う。また、野菜の知識のあるお年寄りの方から学ぶことで、世代間交流につながるはずだ。私たちが小学校に関与することで、小学生を通じ、保護者にも関心をもってもらうことで、小学校を地域の人たち誰もが支え合う関係がさらに深まって欲しいと思う。また、子どもたちには、植物、野菜への関心、食べ物のありがたさ、地域交流を学んでもらいたいと思う。みんなの菜園プロジェクトをきっかけに、子どもたちが今後地域にできる「みんなの菜園」に参加してもらい、今後の発展を目指したいと思う。

５．地域みんなの菜園プロジェクト

（１）プロジェクトの目標

団地、地域の中に菜園を作ることに意味がある。

（２）最終的なゴール

各プロジェクトを同時進行しつつ、各プロジェクトから生まれたアイデアを最終的な「みんなの菜園プロジェクト」に繋げていきたいと考えている。そして、収穫した野菜を使い七輪プロジェクトと共に収穫祭を行いたい。このプロジェクトは長期的なものであり、自分達の学年だけで終わらすのではなくゼミの継続プロジェクトにしたい。最終的なゴールとして、この「みんなの菜園プロジェクト」を通して地域・世代間交流が盛んになっていくような手助けができればいいと考えている。

みんなの菜園イメージ図

謝辞

本プロジェクトは、多摩市教育部永山公民館にたいへんお世話になっています。また、ハーブ、菜園の指導をお引き受けいただいた多摩グリーンボランティア森木会、新都市センター株式会社、片桐徹也先生はじめ、多くの方々に心より感謝申し上げます。